

2. 事業の目的と概要	Project for promotion of reproductive health for adolescents in El Paraíso and Alauca municipalities (2nd year) aims to create an environment where adolescents in the target area are able to access to better reproductive health care with understanding and support from public health institution, school and their parents. The project will conduct trainings to the stakeholders and assist them in carrying out their activities to promote reproductive health of adolescents. The activities includes production of IEC materials, provision of peer education and reference of adolescent clients to health facilities.
(1) 上位目標	対象地域において思春期の妊娠数減少に貢献する。
(2) 事業の必要性(背景)	(ア) 事業実施国における一般的な開発ニーズ ホンジュラス共和国(以下ホ国)は UNDP の人間開発指数(2015 年)が 185 か国中 130 位、中南米 33 ヶ国中 32 位と、域内最貧困国の1つである。主要産業は農林牧畜業であり一次産品への依存度が高く、また輸出収入の約 60%をコーヒーやバナナなどの農産物が占めており、脆弱な経済構造の一因となっている。さらに地域間(都市と地方)・社会層間(富裕層と脆弱層)における格差拡大が顕著になってきており、若年層が他国に流出する等、開発課題が山積している。 保健分野に目を向けると、同国の妊産婦死亡率は、中南米・カリブ海地域平均の 85 人(対出生 10 万人)に比べ 129 人と高い水準にある¹。とりわけ若年層で高く、15～19 歳では 160 人、12～14 歳では 361 人という状況にある²。また、同国の人口約 830 万人のうち、10～24 歳の年齢層は 32%を占め、15-19 歳による(望まない妊娠による出産を含む)出生数は 1,000 人あたり 101 人と、中南米・カリブ海地域平均の 75 人と比較して非常に高い状況にある³。 こうした状況に対して、ホ国政府は「国家ビジョン 2010-2038」の 4 大目標の 1 番目に「教育と健康が行き届いた極端な貧困のない国家」を掲げ、同ビジョンに沿った「国家計画 2010-2022」の中で妊産婦の死亡率を現在の 4 分の 3 まで減らすこと、全妊産婦に占める 15～19 歳の若年妊娠率を現在の 22%から 12.7%まで削減することを目標としている。さらに、同国保健省では思春期層の妊娠を減らすことを目標とした、ENAPREAH「Estrategia Nacional para La Prevencion del Embarazo en Adolescentes de Honduras」(ホンジュラス若年妊娠予防国家戦略/2012)を策定し、各種対策を講じている。しかしながら、たとえば首都テグシガルパの大学病院で介助した思春期層の出産数は、2014 年の 2,500 件に対し 2015 年は 3,100 件(La Tribuna、2016 年 1 月 11 日)と増加しているなど、同国保健省の取り組みはまだ顕著な成果には結びついていない。 (イ)「持続可能な開発目標(SDGs)」における位置づけ 本事業は、17 の持続可能な開発目標(SDGs)のうち、特に以下の 2 つの目標に合致する。 【目標 3】あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。 (特にターゲット 3.7 「2030 年までに、家族計画、情報・教育及び性と生殖に関する健康の国家戦略・計画への組み入れを含む、性と生殖に関する保健サービスをすべての人々が利用できるようにする。」) 【目標 5】ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。 (特にターゲット 5.6 「国際人口・開発会議(ICPD)の行動計画及び北京行動綱領、ならびにこれらの検証会議の成果文書に従い、性と生殖に関する健康及び権利への普遍的アクセスを確保する。」) 若年妊娠率の削減に向けて、これまで行き届いていなかった思春期層へのリプロダクティブヘルスの推進は、ターゲット 3.7 に合致する。また、男性優位などの地域に根強い伝統的な習慣や考え方を子どもの頃から見直し、問題点や課題として考える機会を提供し、男女ともに自分および女性を尊重することの重要性への理解を積極的に働きかけていくことは、ターゲット 5.6 に合致すると考える。 (ウ) 外務省の国別開発協力方針等との整合性

日本国外務省は、対ホンジュラス国別援助方針別紙事業展開計画の重点分野(中目標)1: 地方開発において、母子保健やリプロダクティブヘルスの地域格差を課題として挙げており、保健医療システムの強化を開発課題(小目標)の1つに掲げている。国の政策として進められている地方分権化が保健分野において遅れ、より地元のニーズに密着したサービスを提供するというメリットを活かすことができていないエル・パライス県において、思春期層・学校・保健所(ボランティア含む)が連携して思春期リプロダクティブ・ヘルスに取り組む体制を構築する本事業は、日本国の対ホンジュラス国別援助方針に合致している。

(エ) 申請事業の必要性

全国 18 県におけるエル・パライス県の保健指標は、1 歳児未満死亡率が国平均 24/1,000 に対しエル・パライス県 26/1,000 で下から 7 番目、施設分娩率は国平均 82.7%に対しエル・パライス県 70.9%で下から 4 番目(ENDESA: Encuesta nacional de demografía y salud 2011-2012)と中下位に位置し、2015 年の妊婦の死亡率は 3 番目に高かった(同県保健事務所長による)が、下位の県と比較して他国のプロジェクトや国際 NGO などの支援が少ない。思春期層(15~19 歳)の妊娠については全国平均程度(ホンジュラス全体では 24%、エル・パライス県は 24.2%、ENDESA: Encuesta nacional de demografía y salud 2011-2012)であるが、思春期リプロダクティブヘルスは、母子保健、プライマリー・ヘルスケアと並んで、エル・パライス県保健政策の最重要課題の一つである。特にエル・パライス市とアラウカ市におけるニーズが高く、2015 年のエル・パライス市の若年妊娠数は 156 件と、エル・パライス県 19 市中、ダンリ市、トロヘス市、テウパセンティ市に次いで 4 番目に多く、アラウカ市は同 38 件であるが、全妊婦に対する若年妊娠の割合は 16%と、県内で 6 番目に高い。トロヘス市およびテウパセンティ市は、本国保健行政システムの地方分権化政策により、アミーゴス・デ・ラス・アメリカス(米国の NGO)、国立自治大学が保健行政の運営を委託されており、これらの団体から支援を受けていることから、外部のサポートを受けていないエル・パライス市およびアラウカ市における協力の必要性が高い。

こうした状況を踏まえて、2017 年 3 月に、思春期層のリプロダクティブヘルスケアの向上を目的とした 2 年間の事業⁴を開始した。1 年目には思春期リプロダクティブヘルスを推進する担い手として、保健所スタッフ、学校教師、保護者、青少年の能力強化を図り、彼らが活動を実行するのを支援している。それぞれの立場から積極的な活動への参加が見られるものの、まだ経験が少なく自分たちだけで活動を進めていくことが難しかったり、知識が定着していなかったりする様子が見受けられている。そこで 2 年目の事業(本申請事業)を通じて、一層の活動経験を積んでもらい、彼らに思春期層のリプロダクティブヘルスの課題に主体的に取り組んでもらえるよう、支援を継続する必要がある。ただし、彼らの自主性、オーナーシップに配慮し、活動に対する事業側からの直接介入(支援)は、進捗に応じて抑制していく予定である。

(オ) これまでの事業の成果・課題

当団体は、本事業の先行案件として、2015 年 3 月~2017 年 2 月まで日本 NGO 連携無償資金協力事業により、「ダンリ市山間部における思春期リプロダクティブヘルス推進プロジェクト」を実施した。同プロジェクトは、エル・パライス県ダンリ市のサン・ディエゴ、フティアパ、チチカステ、ビジャ・サントの 4 地区において「思春期層が適切なリプロダクティブヘルスケアを受けられるようになる」ことを目標に掲げ取り組んだ。その結果、思春期層のリプロダクティブヘルスに関する保健所でのカウンセリング数は 62%増加、思春期層の妊婦の産前健診の受診件数も 31%増加するなどの成果が得られ、対象地では保健所や教師に相談しやすい環境が整った。特筆すべきは、同事業が社会・文化的側面にも影響を及ぼしたという点である。例えば、過去に性的暴力を受けながら立ち直ったピアリーダーの経験が初めて語られるなど、刑事事件として提訴され難く、把握することが難しい暴力の実態が明らかになる事例もあった。また、同事業の終了時合合では、県保健事務所所長が思春期層に対応できる心理カウンセラーの保健所への配置に努めたいと表明するなど、思春期層のリプロダ

¹ UNFPA (国際連合人口基金) 世界人口白書 2015

² JICA 技術協力プロジェクト「オランチョ県思春期リプロダクティブヘルス強化プロジェクト」終了時評価調査報告書

³ UNFPA (国際連合人口基金) 世界人口白書 2015。中南米地域では、ボリビアの 116 に次ぐ高水準にある。

⁴ 平成 28 年度日本 NGO 連携無償資金協力「エル・パライス県エル・パライス市、アラウカ市における思春期リプロダクティブヘルス推進プロジェクト」

	クティブヘルスケアの向上を目指した取り組みが受け入れられ、県の政策にも影響を与えつつある。 上記事業で得られた関係者との信頼関係や活動経験を活かし、2017 年 3 月から同県エル・パライソ市、アラウカ市で思春期層のリプロダクティブヘルス改善を目指した事業(本申請事業の 1 年目)を展開している。同事業を開始するにあたり、まず 25 人の保健所スタッフ、50 人の学校教師、100 人の思春期層の保護者、思春期層から選出された 100 人のピアリーダーを対象に研修を行なった。これらの研修を実施することにより、地域に根強い伝統的な習慣や考え方を見直す機会を提供し、男性と女性両方を尊重する重要性への理解を積極的に促している。その後、研修を受講したピアリーダーたちは、同年代の思春期層に対し、自分たちが研修で学んだ価値観や人生設計などを共有し、また考え方を交換することを目的としたワークショップを始めている。今後、思春期層がリプロダクティブヘルスに関する相談や啓発活動を行うことが可能な場所として、上記 2 市の 4 地区の学校にピアルームを設置する予定である。2 年目となる本申請事業では、育成されたピアリーダーが周りの思春期層に対し、リプロダクティブヘルスの重要性を伝え広めていけるようにすること、また、これらピアリーダーの活動を保健所・学校・保護者などの大人たちが支援できるよう後押しし、思春期層の個々人がリプロダクティブヘルスケアを行い、また享受できる環境を整えることを目指す。
(3) 事業内容	2 年目となる本申請事業では、以下の活動を実施する。 (ア)保健所サービスの内容と提供環境の向上 対象地域の 3 つの保健所(エル・パライソ保健所／サンタ・クルス保健所／アラウカ保健所)のスタッフが 1 年次に作成した活動計画に沿って、思春期層やその父母への研修や啓発ツールとしてのポスターや教材の作成などを実施し、その状況をモニタリングする。同時に、当該保健所スタッフ 25 人に対し 5 日間のフォローアップ研修を行う。ピアリーダーの相談相手となるための研修を実施し、能力強化を図る。また、非就学児へのアプローチを強化するため、思春期層の多い 15 村の既存の保健ボランティア 30 人に対し、保健所スタッフと協力して思春期リプロダクティブヘルスを向上させる活動もできるようになるための研修を行う。また、これまでの事業も含めた経験とノウハウをマニュアルに纏め、100 冊程度を県保健事務所や教育事務所と共有する。 また、アラウカ保健所に、思春期層が気軽に立ち寄り、保健所のスタッフに相談したり、同世代の啓発活動を行ったりすることのできるピアルームを整備する。 (イ)学校教師および保護者の理解と協力の強化 対象地域の学校 4 校の教師が 1 年次に作成した活動計画を実施するとともに、その実施状況およびリプロダクティブヘルスに関する保健所へのリファー(紹介)状況をモニタリングする。また、教師 50 人・父母 80 人に対して、各々 5 日間・3 日間の思春期リプロダクティブヘルスやジェンダー等に関するフォローアップ研修を実施するとともに、父母会などの機会に、保健所や学校の関係者とともに本テーマに取り組んでいくことを促していく。 (ウ)ピアリーダーの育成 ピアリーダーが、1 年次に作成した活動計画に沿って、啓発ポスターやパンフレットの作成、学校内における研修、必要な場合の保健所へのリファーなどの活動を、4 校で 30 回程度(下記(エ)の活動を含む)実施し、その状況をモニタリングする。また、思春期リプロダクティブヘルスやジェンダー、価値観、人生設計などに関するフォローアップ研修をピアリーダー 100 人に対し 5 日間実施し、リーダーの能力強化を図る。これらに加え、4 校の学校のリーダー 100 人が一堂に会し、それまでの活動を振り返り、また相互に学び合うことで、以降の効果的な活動を実施するためのヒントを得られるよう、成果発表の場を設ける。 (エ)思春期層の知識向上のための活動 保健所、学校、ピアリーダーに加え、新しく育成する保健ボランティアの協力を促し、非就学層を含む思春期層の知識を向上させるための活動を 10 回実施する。活動は、ピアリーダーが重要だと

	思うテーマについて、ピアリーダー自身が意見を出し合い、分かり易く、参加し易い内容に構成し直した小グループでの研修の他に、多くの地域住民が楽しんで参加できるよう、映画上映会やサッカー大会などの活動を企画し、参加者が思春期リプロダクティブヘルスに関するメッセージに触れられるよう、事業の紹介や保健教育に関するパンフレットを作成・配布する。遠隔地の対象村における啓発活動については、保健ボランティアが適切に活動を行えるように、本事業スタッフが同行してサポートする。活動の過程では、リプロダクティブヘルスを女性のものと考えがちな男性の意識変化を促すべく、男子を積極的に巻き込むよう工夫する。
(4) 持続 発展性	本事業は下記のとおり 2 年計画として実施されている事業の 2 年目に位置付けられる。 第 1 期: リプロダクティブヘルスケアを推進する体制の構築 (保健所スタッフ、教師、親、ピアリーダーの育成、上記各関係者の協力体制構築、ピアリーダーから就学思春期層への啓発活動) 第 2 期: 上記に基づいたリプロダクティブヘルスケアの推進とその体制の確立、維持 (ピアリーダーから非就学層を含めた 2,000 人の思春期層に対するピア教育、ピアリーダー、学校教師、保護者が、事業のサポートなしに保健所と連携して活動し、必要な場合に思春期層を保健所に紹介できる体制の確立と維持) 本事業は、公的機関としてサービスを提供している保健所(とそのスタッフ)を活動レベルの主なパートナーにしていることから、継続的な活動とその内容の改善を期待することができる。本事業では、思春期リプロダクティブヘルスについて学ぶ活動を学校のカリキュラムに組み込むようはたらきかけ、新たに思春期を迎える生徒がもれなくリプロダクティブヘルスに関する情報を得られる体制づくりに努める。また、思春期のリプロダクティブヘルスに係る地域住民の関心は高く、本事業をきっかけに、関係する多様なアクターが、この課題に対して自発的に取り組んでいくことが期待できる。類似活動に取り組んだ先行事業の対象地域では、事業終了後も保健所、教師、父母、ピアリーダーが連携して啓発活動を実施しており、その経験を適用しながら現行事業を実施している。さらに本申請事業後半には、ピアリーダー育成を含めた事業の経験をマニュアルにまとめ、エル・パライス県内の他市の保健医療従事者・教育関係者等と共有する予定である。本事業をモデルとした思春期リプロダクティブヘルスを推進する取り組みが、各市の保健・教育機関で持続的に実施されることを目指す。

(5)期待される成果と成果を測る指標	(ア)裨益者数 <u>直接裨益者:2,285 人</u> 保健所スタッフ約 25 人、学校教師約 50 人、思春期層の保護者約 80 人、ピアリーダー約 100 人、保健ボランティア約 30 人、思春期層約 2,000 人 <u>間接裨益者:対象地区の住民約 37,000 人</u> (イ)期待される成果 <u>事業目標:対象地域において思春期層のリプロダクティブヘルスケアが向上する。</u> 指標 1:対象 3 つの保健所において、思春期層に対するリプロダクティブヘルスに関するカウンセリング数が 20%増加する。 指標 2: リプロダクティブヘルスに関するサービスを受けた思春期層の 80%がサービスに満足する。 指標 3:対象地域の保健所や学校、行政関係者がマニュアルにアクセスできる。 <u>成果 1:保健所による思春期層へのリプロダクティブヘルスケアサービスの内容と提供環境が向上する。</u> 指標 1-1:保健所において策定された思春期リプロダクティブヘルスに関する活動計画が 80%以上実施されている。 指標 1-2:保健所スタッフのリプロダクティブヘルスに関する知識の正答率が 70%以上に向上する。 指標 1-3:設置されたピアルームが、年合計 600 名の思春期層に利用される。 指標 1-4:保健所が、ピアリーダー、学校教師、保護者からの相談・紹介を受け入れている。 指標 1-5:研修を受けた保健ボランティアが、保健所と連携してリプロダクティブヘルスに関する啓発活動を村で実施している。 <u>成果 2: 思春期リプロダクティブヘルスについて、学校教師、保護者、保健所間の協力体制が確立される。</u> 指標 2-1:学校教師が保健所とともに策定した思春期リプロダクティブヘルスに関する活動を実施している。 指標 2-2:フォローアップ研修を受ける学校教師 50 人の思春期リプロダクティブヘルスに関する知識の正答率が 80%以上に向上する。 指標 2-3:研修を受けた学校教師が、適切な時期に保健所へ思春期層を紹介している。 指標 2-4:保護者の思春期リプロダクティブヘルスに関する知識の正答率が 70%以上に向上する。 <u>成果 3:ピアリーダーの能力が向上する。</u> 指標 3-1:ピアリーダーの 80%が活動に参加している。 指標 3-2:ピアリーダーにより策定された活動計画の 80%以上が実施されている。 指標 3-3:ピアリーダーにより適切な時期に各保健所へ相談している件数が 100 件以上ある。 指標 3-4:ピアリーダーの思春期リプロダクティブヘルスに関する知識の正答率が 70%以上に向上する。 <u>成果 4:思春期層のリプロダクティブヘルスに関する知識が向上する。</u> 指標 4-1:思春期の青少年約 2,000 人が、学校内外で行われるピア教育、レクリエーション活動、パンフレット配付等により、リプロダクティブヘルスに関する知識・サービスについて啓発される。 指標 4-2:思春期層のリプロダクティブヘルスに関する知識が向上する。
---------------------------	--